平成 24 年７月６日　金曜日

奈良県感染症発生動向調査
還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター　*Nara IDSC*
（奈良県保健環境研究センター内）

今週の概要

今週の感染症情報

（調査週）平成 24 年　第２６週　６月 25 日（月）～７月１日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　（奈良県上位５疾患）（５週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	3.46	→～↓	↓	→～↓	↓
2	Ａ群溶連菌咽頭炎	1.37	→	→	→	→～↓
3	水痘	1.09	→	→	→	→～↑
4	ヘルパンギーナ	0.71	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.63	→	→～↑	→	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況　報告数は119例で、前週報告の117例からほぼ横ばい。上位５疾患は、①感染性胃腸炎、②A群溶連菌咽頭炎、③水痘、④ヘルパンギーナ、⑤流行性耳下腺炎の順。A群溶連菌咽頭炎の報告数（22例）は、やや増加。ヘルパンギーナの報告数（12例）も、やや増加。流行性耳下腺炎の報告数（10例）も、やや増加。水痘の報告数（19例）は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（35例）は、減少。前週に引き続き眼科定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかったが、郡山HC管内基幹定点から、細菌性髄膜炎；1例（0歳児）およびマイコプラズマ肺炎；2例（5～9歳児と10～14歳児）が報告された。（村井　記）

県北部外来状況　外来患者数は少なくなっている。学校、園でプールが始まり、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱など夏風邪が増え始めた。水痘や流行性耳下腺炎も小学校で流行し始めている。溶連菌咽頭炎は引き続き検出される。一方、感染性胃腸炎は減少している。　（矢追　記）

県中部地区概況　報告数は、129 例から 143 例と増加した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘およびヘルパンギーナの順であった。感染性胃腸炎は、79 例と減少傾向であり、A 群溶連菌咽頭炎は 21 例と横ばいである。ヘルパンギーナは 9 例と増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。　（高木　記）

県中部外来状況　外来数は横ばい、多くはない。短期の高熱のアデノ様感冒が多い。咳嗽例も多く、年長児ではマイコプラスマ肺炎がある。嘔吐を主とする感染性胃腸炎の流行がまだあり、幼児で、ノロ・ロタ両方陽性例があった。ノロウイルスキットは疑陽性に出やすい印象、直接採便（腸粘液混入？）で出やすいとの説明であった。水痘が流行中。その他 A 群溶連菌感染症がわずか、ヘルパンギーナはなかった。ごく軽症の手足口病疑い例があった。
（岡本　記）

県南部地区概況　報告数（第 25 週→第 26 週）は 20 例→31 例と増加。報告のあった疾患は、①水痘（5 例→10 例）、②感染性胃腸炎（6 例→7 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（5 例→5 例）、④突発性発疹（1 例→4 例）、④ヘルパンギーナ（2 例→4 例）、⑥流行性耳下腺炎（1 例→1 例）であった。
（柳生　記）

県南部外来状況　外来数は横這い、あまり多くはない。感染性胃腸炎は少なくなっている。高熱、頭痛が主の夏かぜ様が多くなってきた。ヘルパンギーナも少しあり。発疹症も認めた。水痘の流行が続いている。溶蓮菌咽頭炎は減少傾向。マイコプラズマ肺炎が学童や中学生で見られるので注意が必要。
（山本　記）

これらの内容は以下のホームページで
さらに詳しくご覧いただけます

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm